

よつばちゃんになれたらいいのにな

よつばちゃんと過ごしていく中で、よつばちゃんの小屋や寝床を直す『よつば建設会社』、よつばちゃんのもふもふの体をブラッシングして整える『よつば美容院』、よつばちゃんが喜びえさを作る『よつば料理店』、走ることが大好きなよつばちゃんとお散歩に出かける『よつばスポーツジム』などの会社ができていきました。一人一人がよつばちゃんのためにしたいことや、よつばちゃんと一緒にしたいことを考えて活動していました。「よつばちゃんになれたら、よつばちゃんの気持ちがもっと分かるのに…」と、子どもたちはよつばちゃんに思いをめぐらしていました。私たちはよつばちゃんになることはできません。言葉も通じません。でも、その姿や動きから、よつばちゃんの気持ちを考えることはできます。子どもたちが小屋に入ると寄ってくるよつばちゃんの様子、脱走してもちゃんと止まって待っているよつばちゃんの様子を見ていて、いっしょに過ごしたり、よつばちゃんのことを思って行動したりした分だけ、よつばちゃんと気持ちが通じる確率は上がるのだと思いました。



よつばちゃん大丈夫かな！？

「大変。よつばちゃんのウンチがぶどうウンチだった」と心配そうに見つめる子どもたち。よつばちゃんの第一の健康バロメーターは大豆のようなころころのウンチなのですが、ブドウのように一塊になったウンチが出ていたのです。「でも、小屋に入ると立ち上がるし、食欲もあるんだよね」と話し合いながら、子どもたちはウンチ以外のことから、よつばちゃんの状態を把握しようと考えていきました。羊の飼い方を本で調べ、「鼻水やよだれが出ていないと健康だよ」、「耳がぴんと立っていると元気だよ」、「下のまぶたの裏側がピンクだと元気。白いと脱水症状だよ」と、皆で情報を共有しました。そして、話し合いが終わると、子どもたちはよつばちゃんの小屋に向かって駆け出していきました。「最近草を食べさせることが少なかったから、ちゃんと草を食べた方がいいと思うんだよね」と散歩に連れ出す子、「目の所はピンク色だったよ」と早速調べる子、「きれいなお水を飲んだほうがいいから」と水を汲みなおす子、子どもたちそれぞれが、自分なりのかかわり方で大事によつばちゃんを見つめているように思いました。2日後、ウンチもすっかりといつも通りの状態に戻り、ほっと一安心しました。



よつばちゃんにも聞こえたかな

2月に音楽会がありました。どんな歌を作って歌おうかと話し合いをし、よつばちゃんとの生活を歌にしようと決めました。子どもたちは、これまでのよつばちゃんとの日々を思い起こしながら歌詞を作り、音楽の先生と相談しながらリズムをつけていきました。そして、『小屋作りの歌』『走るよつばちゃん』『寝ているよつばちゃん』『脱走名人』『食べるよつばちゃん』の5曲が完成しました。初めての音楽会は少し緊張もしましたが、ステージの上から「よつばちゃん、聞こえたあ？」と元気いっぱい歌を披露することができました。